教員おすすめ図書コーナー推薦書

教　員　氏　名 森　祐司 先生	おすすめメッセージ
①　図書名：暴落（上・下） 著　者：アダム・トゥーズ 出版社：　みすず書房　　ISBN：9784622088745	ロシアのウクライナ侵攻は２月24日からの情勢にどうしても目がいきがちであるが、これからの時代変化を考えるには、それまでの経緯や複雑な欧州の政治経済関係について、鳥瞰する必要があろう。本書は歴史学者が書いた世界金融危機とその後の米欧の政治経済について、「侵攻」の数年前に出版された近い過去の「歴史書」である。その多くは世界の政治経済についてだが、驚くべきは、既にウクライナとロシアについて多くの分量を割き、まさに鳥の目で冷静に記述・評価していることである。「プーチンの考えでは常々、地経学は地政学だった」など鋭い指摘も多い。世界はこの侵攻から変わったと言われるようになったが、時代の変化の渦中にあるとそれに気づかないものがある。本書は現在進行形で変化する世界の政治経済を賢く見る一助となる良書である。
②　図書名：中央銀行 著　者：　白川方明 出版社：　東洋経済新報社　　ISBN：9784492654859	著者の白川前総裁から引き継いだ黒田総裁は一貫して「デフレ脱却」を目指してきたが、現時点（22年７月）では急速に円安がすすみ、資源価格高騰などによって「意図せざる？」「悪い？」インフレになりそうだとも予測されてきている。一方、それは黒田総裁の描いたシナリオ通りのデフレ脱却だったのか、インフレが顕現化したとき金融緩和の出口はどうするのか、議論すべき課題山積みなのが現状である。前総裁の著者は、もちろん黒田日銀の政策についての論評は差し控えているが、90 年代の不良債権問題に多くの紙幅を費やしていることからも分かるように、中央銀行の使命はインフレ問題だけでなく、金融システムの維持や、金融危機にどう備えるかが重要であることを強調している。しかし、経済学は長期的な金融的不均衡の蓄積と崩壊の理論や政策的解答を用意できていないのが現状なのである。